測量計算・電子野帳（TS）

A-SurveyAd

Android

エース プロジェクト

2022/05

Ver3.9.9 で追加、修正された機能を説明します。

・SIMA 読込、結線の重複をチェック
・計測中の TIN の表示、ON,OFF

１、SIMA 読込、結線の重複をチェック

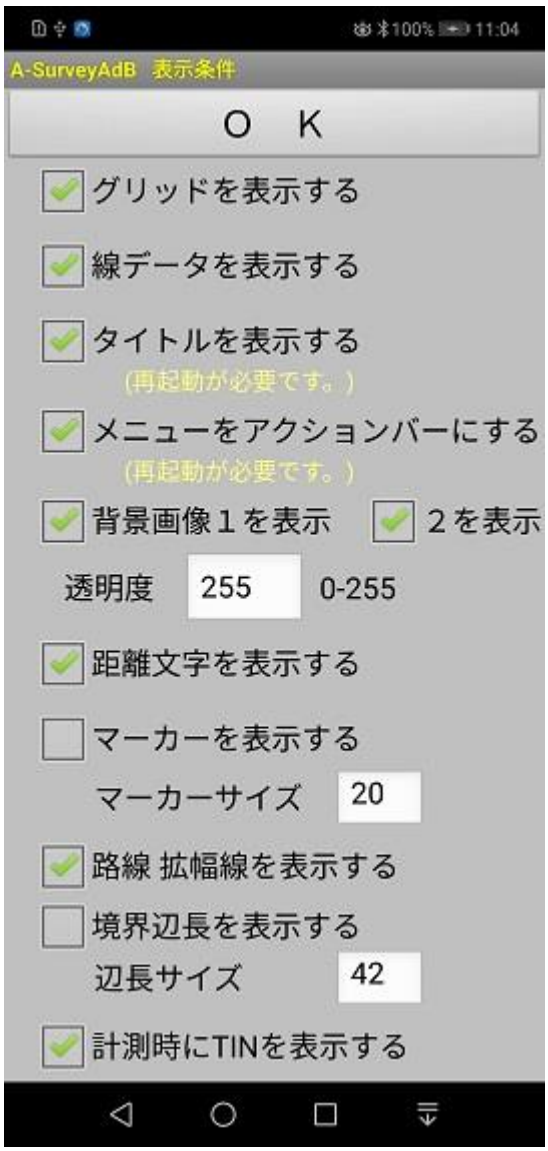
要望がありましたので、対応しました。

・A-Ad で SIMA ファイルを保存
・PC の測量ソフトで、編集
・編集後の SIMA ファイルを、A-Ad で読み込む

この時、同じ現場に読み込むと
座標や画地は点名や地番で上書きされるので OK ですが
結線データは、追加となり増えてしまいます。
同じラインのデータが、出来てしまいます。
これをくり返すと、何本も同じラインデータが出来ます。
新規現場で、SIMA を読み込めば、問題ないです。
この作業を何度もされるという事で、今回、
既存現場に読み込んだ場合に、結線データを検索し
同じデータは、追加しないように変更しました。

２、計測中の TIN の表示、ON,OFF

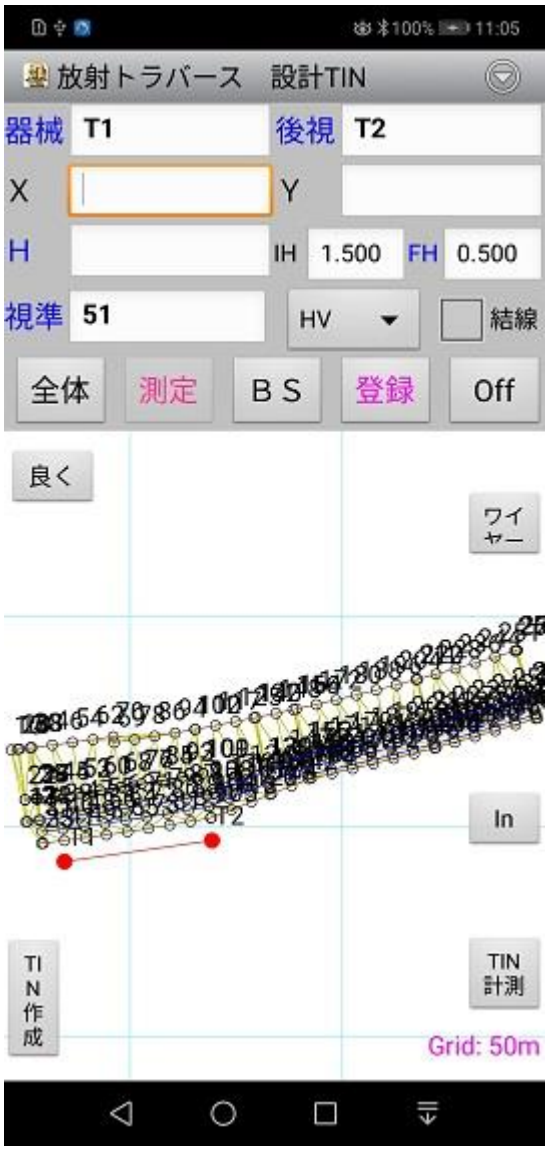
TIN 計測には、A-AdB で TIN を作成した場合と LandXML を読み込んだ場合があります。
それぞれで、「TIN 計測」時に前者は TIN を表示しません。
後者は、TIN を表示します。
今回は、この計測時の TIN の表示を条件に追加し統一しました。

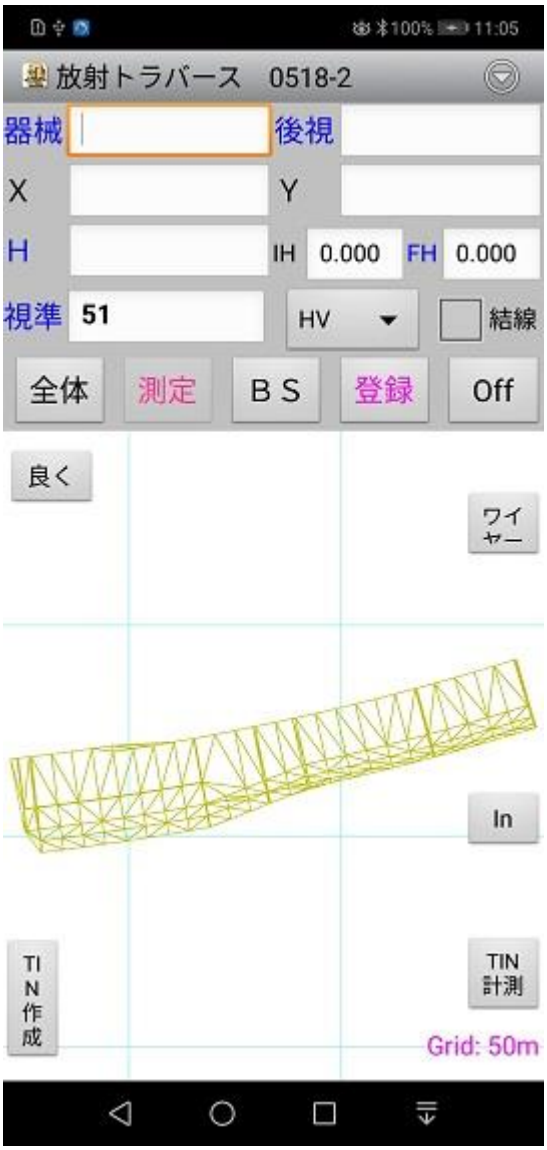


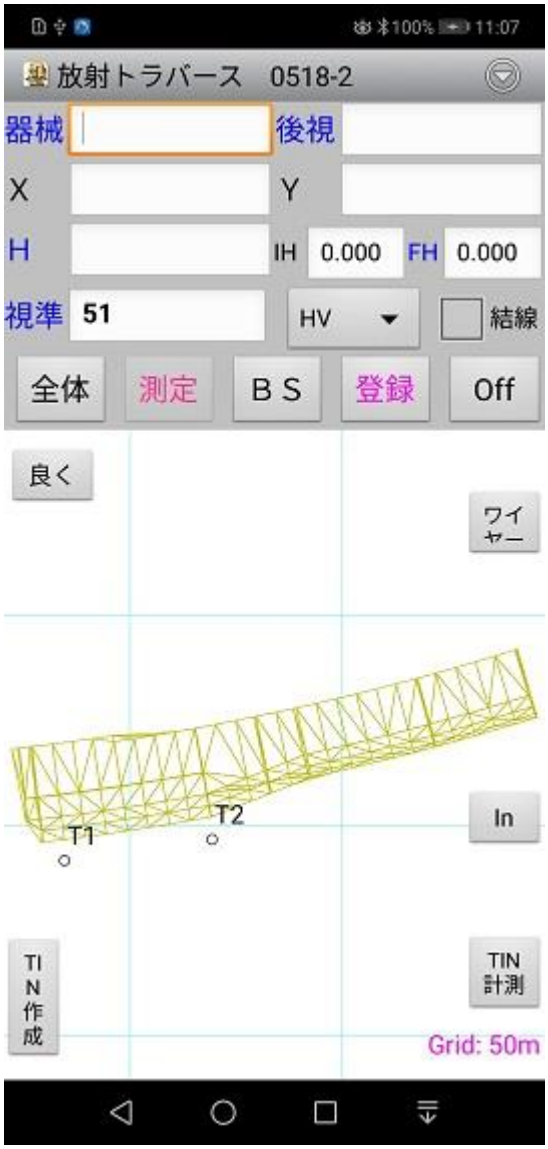
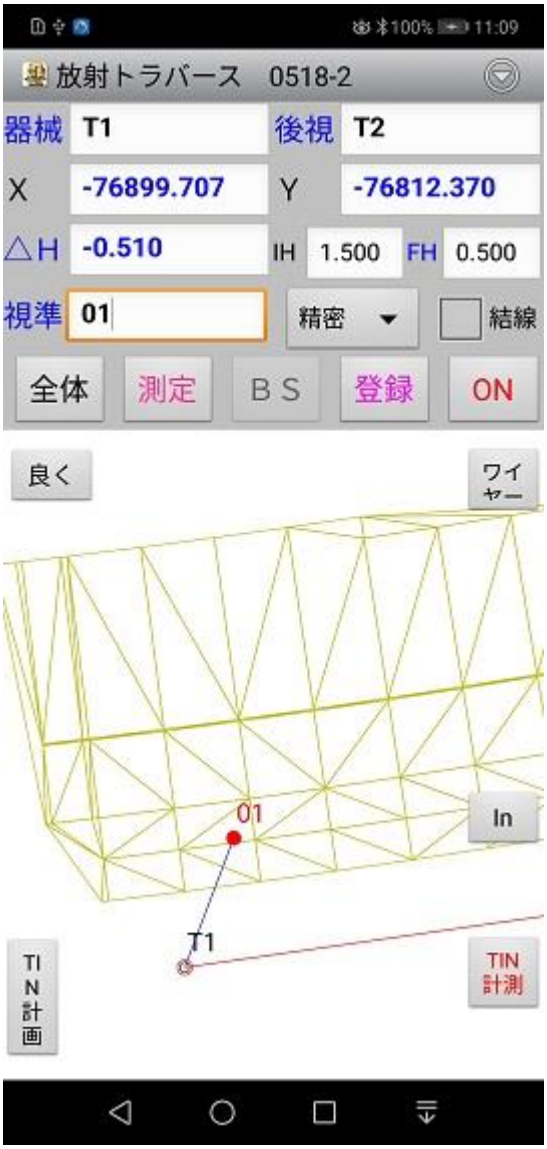
＜――― システムに共通の条件です。

A-AdB で、TIN を作成した場合は（画像左）
座標データと TIN が現場データに存在します。
よって、画面に TIN の点名が表示されています。

LandXML から TIN を読み込んだ場合は（画像右）
TIN の座標データは有りませんので、点名は表示されません。
「点表示条件」で、□標高にチェックした場合標高は表示されます。





下記の手順を行えば、同じ状態にできます。

A-AdB で、設計座標を読み込んで、TIN を作成します。
現場フォルダ/TIN/基準面_LandXML.xml が作成されます。
このファイルを、SIMA フォルダにコピー。
新規現場で、この基準面_LandXML.xml を読み込むと
同じ状態で使用できます。